

第1部 調査報告

「高校生の地域と地元に関する意識調査」  
アンケート集計結果報告

長岡大学教授／地域連携研究センター運営副委員長 米山宗久

丸田 それでは、これより「調査報告」を行います。報告者は、長岡大学地域連携研究センター副委員長の米山が行います。よろしくお願ひいたします。

米山 はい、よろしくお願ひします。お手元にA4両面の資料がありますが、前方のスライドを見ていただいた方がいいと思いますので、後でじっくりと見ていただければと思います。

では、時間も限られているので始めたいと思います。先ほど、学長からも話がありましたが、昨年12月6日から今年1月5日までの間、皆さんにアンケートを実施させていただきました。対象者は全校生徒ということで、その96.7%、ほぼ全員の方から回答をいただきました。アンケートの目的は、高校生の生まれた地域や栃尾地域の現状と課題をどのように考えているのかを聞きたい、また、栃尾のために何ができるのかを検証したいということです。お聞きした主な項目は「暮らし」、「魅力」、「イベント」、「進学・就職」についてです。

次が具体的な数字になります。まず1つ目ですが、栃尾地域は衰退していると思っている方がどのくらいいるかということで、文字を赤くしてあります。23.3%が「とてもそう思う」、50.0%が「少し思う」、合わせると73.3%が栃尾は衰退していると思っていることが分かります。では次です。右側をご覧ください。いちばん多い62人の方が「少子高齢化」と回答しています。子供が少なく、65才以上の方が多くいらっしゃいます。次が「人口減少」です。3番目が「企業が少ない」。「お店が少ない」も含めて34人ほどいらっしゃるということです。

では次です。住所別に見ていきます。皆さんの中でも、栃尾に住まれている方と栃尾以外から栃尾高校に通っている方がいらっしゃいますので区別してあります。上のほうは「栃尾に住まれている方」、下のほうが「栃尾以外に住まれている方」です、赤字で書いてあります。

栃尾地域に住みたいかどうかです。「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」が多い形になります。特に栃尾に住んでいる方、47.9%の方が栃尾に「住みたくない」と答えています。栃尾以外の方も50.0%いらっしゃいます。グラフを見ていただければ分かるように、「住みたくない」という方が多いということです。その理由として、衰退しているということも挙げられているのが現状だと思います。

次に、住みたくない理由。「企業(商工業)がない」、「働く場所がない」ということ、もしくは「日常生活で商店が少ない」という理由を挙げている方が多いです。次が「不便だ」、「交通機関が少ない」。「雪」を挙げられた方も17名ほどいらっしゃいます。「雪が降るから」を住みたくない理由に挙げています。

次に、悪いことばかりではなく、昨年も聞きました。「栃尾で自慢できるものは何ですか」。「油揚げ」です。全国版でもテレビ放映されました。栃尾の油揚げを自慢できる。おいしいですよ。私も学生と一緒によく食べに行きます。次に多いのが「自然」。自然豊かである。次に少し下がりますが、「人情」。人が良いということも挙げられている方が多くいらっしゃいます。

次に、栃尾のために何か参加したいかという問いです。7.9%の方が「参加したい」、43.1%の方が「やや参加したい」という意見があります。合わせると51.0%で、半分の方が栃尾のために何かできることがあれば「やってみたい」という意思があるという形になります。

栃尾のために何か、衰退している状況も踏まえて何かしたいという意向があります。

次に、参加の中の1つとして、「とちお祭」というのがあります。今回は中止になりましたが、とちお祭に参加した理由をお聞きしました。「地域の行事だから参加したい」もしくは「学校の行事として参加した」。小学校・中学校・高校も合わせて、学校の行事として参加したという方もいらっしゃるし、「自分の意思で参加したい」そういう方もいらっしゃいます。参加できる時にとちお祭に参加したいということだと思います。

次に、栃尾の暮らしについて聞きました。暮

らしやすいところ・暮らしにくいところ、どういったものが挙げられるか。赤いほうが暮らしやすいところ。いちばん多いのが85.1%です。「自然環境の良さ」、雪は降るけど自然環境は良いよというのが断トツで85.1%です。次に多いのが、下のほうですね、「近所付き合い(人間関係)が良い」55.9%。人間関係が良い。相談できたり、助け合ったりということもあるかもしれませんが、そういう関係がある。次に多いのが「治安の良さ」。熊が出ますけどね。熊が出たりして、おっかないけれど、治安が良いと。逆に暮らしにくいところ。上のほうです。いちばん上のところの「買い物」。買い物等、日常生活の利便性が悪いかということが69.8%。次に「公共交通機関が充実していない」が66.8%。生活するにあたっての条件的なもので暮らしにくいと感じる方が多いということです。3番目は「公共施設」だったり、「病院や福祉施設」も50.0%近くの方が回答していらっしゃいます。

次に、この質問があったと思います。リーダーを頼まれたら引き受けますか。地域を活性化するためにリーダーになって、みんなと一緒に何かやりませんか、引き受けますかという問いですが、残念なことに86.6%の人が「引き受けない」という回答でした。どうして引き受けないのか、その理由を聞きました。いちばん多いのが「性格的に向いていない」。私はリーダーなんて性格的に向いていないと思っている方が35人でいちばん多い。次に「地域に詳しくない」。まあ、栃尾以外の方もいらっしゃるかもしれないので、栃尾地域のことを知らないということもあり得る。次に多いのが「面倒」。面倒くさいということですね。次が「まとめられない」。まとめる方法が分からないという方がいる状況があるということが分かりました。

次に、将来地元へ戻りたいかという問いです。これは栃尾地域の方は栃尾へ、栃尾地域以外の方は地元、たとえば三条とか見附へということです。「とてもある」が26.2%、「ややある」が46.0%ということで72.2%の方々が栃尾もしくは地元から離れてもいつかは地元へ戻ってきたい意思があることがうかがえるかと思っております。

この調査結果をまとめたことを見てみましょう。高校生の皆さんは栃尾の魅力や状況を理解しています。どうして衰退しているのかということも分かっています。暮らしやすさについても分かっています。理解されているがどうするかというのは、またその後の問題です。2番目として、栃尾の暮らしで改善する必要があることも理解しています。交通面であったり、生活するにあたってのお店が足りないということも理解している。あと、リーダーができる可能性も含んでいます。たとえば方法が分からない方や、初めから性格的に無理だと思っている方もいらっしゃる、でも、根本的には変わらないかもしれませんが、環境によっては性格が変わって活発になるということもあるかもしれません。

では最後のスライドになります。この調査から皆さんへのアドバイスです。おこがましいかもしれませんが、3つほど私のほうから挙げさせていただきました。

1つは、自分を好きになってもらいたい。これは自分の魅力を見つけることになります。自分を好きになってもらいたいと思います。2番目、いろいろなことに興味を持ってもらいたい。ちょっとしたことで全然問題ないです。目標が見つかります。なんでそうなっているのだろうということ、興味を持つことです。最後に、何か行動してみる。自分で動いてみると自信につながります。自信があれば、いろんなこともできる。初めからできないなど思わずに何かやってみれば「ああ、できたじゃない」という自信になるかもしれません。最後は皆さんへのことです。一歩踏み出してみましよう。一歩踏み出すことが必要になると思います。一歩踏み出すことによって夢を形にできるかもしれません。自分の夢もあると思いますし、そういう形にできるということにもつながります。ぜひ一歩踏み出してみようということをお頭の片隅でもいいので入れていただければと思います。

では、アドバイスも兼ねて私の報告は以上になります。ありがとうございました。

**丸田** 米山先生、ありがとうございました。